

Maurice DURUFLÉ

REQUIEM

ラテン語の窓

annotated by Yukiko Kabuki

ラテン語は生きている！

イタリア中西部のラティウム地方の方言だったラテン語。ローマ帝国の公用語となり、帝国滅亡後もキリスト教会、ヨーロッパ世界の文化の礎であり続けました。いまでこそ、日常会話でラテン語を使う人はバチカン市国のほかにいないとされますが、決して死語などではありません。イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語といったロマンス語派の中に少しずつ姿を変えて脈々と生きていますし、ゲルマン語派である英語にも沢山のラテン語由来の単語が含まれています。カタカナのまま日本語になる傾向が強いコンピューター用語にも多くのラテン語由来の英語が忍び込んでいます。

Edward Wells による地図



モニター/Monitor 監督者 ハードディスク/Discus 円盤
パソコン/Persona お面・人柄+computere 計算する
デフラグ/De ~から離れる+fragmentum 断片
ウィルス/Virus 毒・粘液 U S B も！

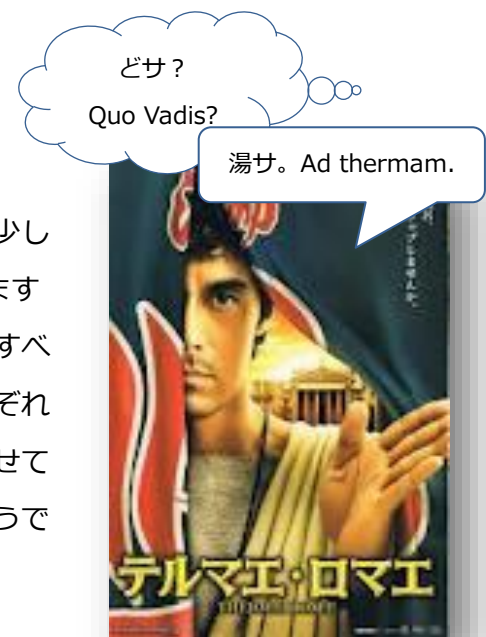
「レクイエム」に出てくる tibi, te, tu どれも「あなた」とは？！

日本語では文の中の名詞が主語なのか、目的語なのか区別するために「てにをは」をつけますが、ラテン語では名詞のしっぽそのものを少し変えます。英語も主格 he・所有格 his・目的格 him としっぽを変えますが、変え方は3とおりだけ。でも、ラテン語は5~7つも！しかも、すべての名詞が男性・女性・中性、おまけに単数・複数に区別され、それぞれにしっぽの変え方が違います。形容詞も修飾する名詞のしっぽに合わせて変わります。面倒なようですが、耳で聞いていると韻を踏んでいるようできれいです。

ちなみに、「テルマエ・ロマエ」は「ローマのお風呂」の複数形です。

動詞にいたっては一体どういう脳の構造なのかと仰天する仕組みです。

英語は3単現のs さえ気をつければあとは全部同じですが、ラテン語では何から何まで全部違うのです！
ということは、主語を明示しなくても動詞だけ見ればわかる場合が多いということです。



この仕組みが頭に入ったら気持ちいいことでしょうね。でも間違えたからといって困った人がいたかどうかは謎ですが。

名詞・形容詞の変化 少しサボって5格バージョン

格	日	ラテン	英	日	ラテン	
					単	複
主格	私は	ego	I	ローマの風呂は	therma Roma	thermae Romae
属格	私の	mei	my	ローマの風呂の	thermae Romae	thermarum Romarum
与格	私に	mihi	me	ローマの風呂に	thermae Romae	thermis Romis
対格	私を	me	me	ローマの風呂を	thermam Romam	thermas Romas
奪格	私から	me	me	ローマの風呂から	therma Roma	thermis Romis

ほかに呼びかけ用の「呼格」、場所を表す「所格」を使った時代も…省略あしからず。

動詞の変化 現実モード（直説法）現在形

私は与える	do	I give…
あなたは与える	donas	You give…
彼は与える	donat	He gives…
私たちは与える	donamus	We give…
あなたたちは与える	donates	You give…
彼らは与える	donant	They give…

BVLGARI ?

u,v,w はどれもギリシャ語の Y からだんだんと分かれていきましたが、u が分かれる前は V の字を当てていました。ブルガリの綴りはその名残を感じさせます。「UV カット」はいかにも最近の言葉です。

日本語と似ている…

ラテン語と日本語の共通点はたっぷりした母音だといわれます。種類は少なめでシンプルですが、登場回数が多いのです。対照的に、イギリス英語は母音の種類は多いようでは、実際は子音の固く鋭い響きが印象的、優先的に含まれる周波数もイタリア語や日本語よりずっと高いことがわかっています（トマティス理論）。

母音は子音より、人間の内面や感情と深く結びつくとされています。たとえば、先生が急に「明日試験します」といったら、生徒は一斉に「え～」と言うでしょう。代わりに「あ～」 「い～」 「う～」 「お～」 と言ったらちょっと変な感じですよ。

ラテン語が多彩な「しっぽの変化」にいろいろな母音を用いているのがますます不思議です。

1 INTROITUS

Requiem aeternam dona eis, Domine;

名・女単・対 形・女単・対 動・命令単 代・3複・与 名・男単・呼

安らぎを とこしえの 給え 彼らに 主よ

et lux perpetua luceat eis.

接 名・女単・主 形・女単・主 動・仮3単 代・3複・対

そして 光が 永遠の 照らすよう 彼らを

Te decet hymnus, Deus in Sion,

代・2単・対 動・現3単 名・男単・主 (ギリシャ) 名・男単・呼 前 名・与

あなたには ふさわしい 賛美が シオンの神よ

et tibi reddetur votum

接 代・2単・与 動・未3単 (受) 名・中単・主

そして あなたに 再びささげられる 誓いが

in Jerusalem.

前 名・与

イエルサレムにて

Exaudi orationem meam:

動・命令単 名・女単・対 形・女単・対

聞き入れたまえ 祈りを 私の

ad te omnis caro veniet.

前 代・2単・対 形・女単・主 名・女単・主 動・未3単

あなたのもとに 肉体をもって生きる者は銘々来るでしょう

Requiem aeternam

とこしえの 平安を

関連する英語 (高校程度)、気づ

いたことのメモです。

eternal・eternity / 永遠～

donor ドナー

kingdom 王が主の国 = 王国

luxurious 贅沢

=ピカピカ、キラキラから!

luceat eis のところで光が降り

注ぐかように音程も下降してい

るのが興味深いです。

perpetual 永遠の

decent まともな

hymn 讚美歌

vote 投票する

= 政治的誓いを立てる、立場をは
っきりさせる、から。

audio オーディオ

「私は聴く」の意。ちなみに、

video は「私は見る」。

omni+aでスゴイ言葉が。

omni+present(存在してる)

→偏在 あらゆるところにいる

omni+scient (知っている) →全知

omni+potent (力ある) →全能

omnibus→いろんな歌手、作家の作
品を集めたもの

=みんな乗れるバス、から

caro の原形は carnis

carnival 謝肉祭

chili con carne チリコンカーン

2. KYRIE

Kyrie eleison,
Κύριε ἐλέησον
主よ、憐れみたまえ

Christe eleison,
Χριστὲ ἐλέησον
キリストよ、憐れみたまえ

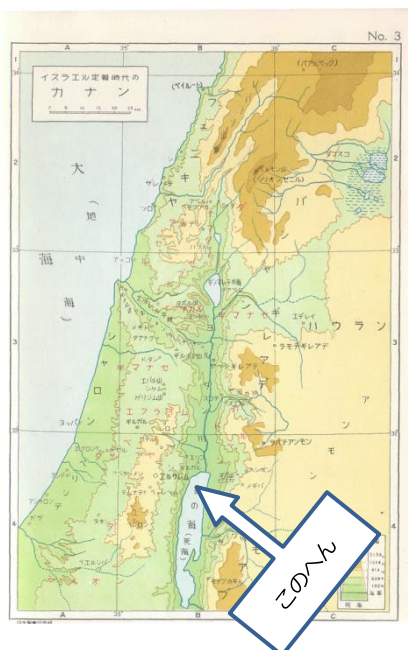
Kyrie eleison.
Κύριε ἐλέησον
主よ、憐れみたまえ

キリエはギリシャ語。
ラテン語ならば miserere



アブラハム

イスラエル 12 部族共通の祖先であるヤコブの祖父です。神の啓示を与えられ、齢 75 にして約束の地、カナン（パレスチナ）を目指して旅立ちました。100 歳の時、不妊であった妻サラがイサクを身ごもるのですが、子孫繁栄と土地を約束した神にやっと授かった跡取り息子を生贄に求められます。これにアブラハムが従おうとしたところ、天使が現れて止めたという逸話があります。



シオンとエルサレム

シオンはエルサレム地方の昔の呼び名。神殿の丘があり、エルサレム、イスラエル全体の象徴でもあります。シオニズムはシオンに由来。

3. DOMINE JESU CHRISTE

Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
名・男単・呼 名・男単・呼 名・女単・属
主なるイエス・キリストよ 王なる 栄光の

libera animas
動・命単 名・女複・対
解き放ちたまえ 魂を

omnium fidelium defunctorum
名・複・属 形・複・属 形・複・属
すべての者たちを 信仰篤き 死せる

de poenis inferni
前 名・女複・奪 名・男中単・属
～から 種々の罰 地獄の

et de profundo lacu.
前 前 形・男単・奪 名・男単・奪
と ～から 底知れぬ 奈落

Libera eas de ore leonis;
動・命単 代・3複・対 前 名・中単・奪 名・男単・属
解き放ちたまえ 彼らを ～から 口 獅子の

ne absorbeat eas tartarus,
副 動・仮3単 代・3複・対 名・男単・主
のみ込まないように 彼らを 無限の地獄が

ne cadant in obscurum.
副 動・仮3複 前 名・男単・対
彼らが陥らないように ～に 暗闇

T-rex ティラノサウルス
= 恐竜の王様
glory 栄光

liberty・liberal 自由～
anima/animus この言葉は男女
形両方あり。もともと「動くもの」
の意。
animation アニメ=動く絵画
animal 動物=動くもの

映画タイトルでは同じ地獄でも
hell より infernus が人気?!

Infernal Affairs

Towering Inferno

profound 深遠な

oral 口の 例) オーラル・ケア

absorb 吸収する

obscure 薄暗くあいまいな

**tartarus, obscurum など無間の
奈落をあらわすところで音も
低くなっています!**

Sed signifer sanctus Michael

接 形・男単・主 形・男単・主

それでも しるしの担い手 聖なる ミカエルが

repraesentet eas in lucem sanctam.

動・仮3単 代・3複・対 前 名・女単・対 形・女複・対

導きますように 彼らを ~へ 光の 聖なる

Quam olim Abrahae promisisti 関

代・女単・対 副 名・男単・与 動・現完・2単

それを(光を) あのと き アブラハムに あなたは約束した

et semini ejus.

接 名・中単・与 代・3単・属

~と 子孫に 彼の

Hostias et preces tibi, domine,

名・女複・対 接 名・女複・対 代・2単与 名・男単・呼

供犠 と 祈り あなたに 神よ

laudis offerimus.

名・女単・対 動・現1複

賛美を 私たちは献げます

Tu suscipe pro animabus illis

代・2単・主 動・命単 前 名・男複・与 代・3複・与

あなたが(それらを)受けとめますよう ~のため 魂たち 彼らの

quarum hodie memoriam facimus.

関代・属 名・女単・対 動・現1複

彼らを 今日 記憶に 私たちは浮かび上がらせる(成す)

Fac eas, Domine,

動・命単 代・3複・対 名・男単・奪

成させたまえ 彼らに 主よ

de morte transire ad vitam.

前 名・女単・奪 動・不定 前 名・女単・対~から

から 死 移りゆく ~に 命へ sign 署名する

signature 署名

represent 表す・代表する
= re 再び + present 示す、から。

promise 約束する

promising 見込みがある

offer 提供する

人間の祈りを「sub 下から +
cipere とる」とは興味深いです。
神と人、誰がどんな位置にいるの
でしょう? 英語には
re/ac/con+ceive など cipere を
使う単語はいろいろあるけれど、
"sus"ceive はありません。

memory 思い出

fact 事実 = 成されたこと

immortal/mortal

不死の/いずれ死ぬ

vitamin ビタミン

vitality 生氣

4. SANCTUS

Sanctus, sanctus, Sanctus

形・男単・呼

聖なる

Dominus Deus Sabaoth.

形・男単・呼

名・男単・呼

Σαβαώθ

主なる

神

万軍の

Pleni sunt coeli et terra

形・複 動・現3複

名・中複・主

接

名・女単・

満ち溢れている

諸天

と

大地は

gloria tua

名・女単・奪

形・女単・奪

栄光で

あなたの

Hosanna in excelsis.

(ヘブル語原意：今救いたまえ)

前

名・中複・与

ホサナ

～に

いと高きところ

Benedictus qui venit

過分・男単

関代

動・現完・3単

祝福されている

次のような人は 来たる

in nomine Domini.

前 名・中単・与

名・男単・属

～名において

主の

Hosana in excelsis.

いと高きところに ホサナ

a plenty of たっぷりの～

= plenus はやたら数が沢山あることではなく、ひとつの全体が満たされて完全であるさまを指します。

天を複数形で表すのは、いくつもの層からなる天を思い描いているためです。

excelsior! さらなる高みを!

(エクセルシオール・カフェは向上心がモットー?)

bene よく + dictus (祈りに) 述べられた = 祈ってもらえたということ、祝福されたということ。

bene よく + esse 存在する = ベネッセ!

name 名前

5. PIE JESU

Pie Jesu, Domine, dona eis requiem.

名・男単・呼

動・命単 代・3複・与 名・女単・対

憐れみ深きイエスよ、主よ

与えたまえ彼らに 安らぎを

sempiternam.

形・女単・対

常に絶えることのない



ミカエルとは

ユダヤ・キリスト教の天使のひとりです。宗派・文化によってさまざまな象徴・逸話があり、イスラエル民族・カトリック教会では自分たちの守護天使ということになっています。その名は「神に似たもの」または反語的に「誰が神のようになれるのか」を意味し、神のようになろうとした反逆天使ルシファーと戦いつつこう言い放ったことに由来します。

天使の軍勢を率いる隊長のイメージを持つうえ「大」天使という役職(?)から、中天使、小天使の上に立つ一番偉い天使かと思いたくなりますが、実はそうでもないのです。9つのヒエラルキー(位階)のなかで大天使は下から2番目。上の位階への昇進を辞退し、人間たちと共にあることを選んでいるという説もあります。なかなか進歩しない人間を守り導くのが光の剣。ドラゴンを成敗する姿は、大天使サマエルとの戦いの象徴とも、人間の自己中心主義・物欲を克服する象徴とも言われています。(signiferは旗手と訳されますが、ハタを持っている姿はあまり見かけません)

天使の位階

熾天使 Seraphim

智天使 Cherubim

座天使 Thrones

主天使 Dominions

力天使 Virtues

能天使 Powers

権天使 Principalities

大天使 Archangels

天使 Angels



6. AGNUS DEI

Agnus Dei,

名・男単・呼

名・男単・属

子羊

神の

qui tollis peccata mundi,

関代・男単・主

動・現・2単

名・中複・対

名・男単・属

(あなたは) 除く

罪を

世の

dona eis requiem.

動・命単

代・3複・与

名・女単・対

与えたまえ

彼らに 安らぎを

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,

世の罪を取り除く神の子羊

dona eis requiem sempiternam.

彼らに絶えることのない安らぎを給え

peccable 罪を犯しやすい

mundus →monde (フランス)

モンドセレクション金賞、のモンド

もこれです。



From an old print, courtesy of Carl Oscar Borg.

THE PTOLEMAIC SCHEME OF THE UNIVERSE.

プトレマイオスが体系づけた天動説の宇宙図。地球をとりまいて、惑星、恒星を含む heaven が同心円のように層をなして重なっています。ダンテの「神曲」では地球に近い層から順に 月星天・水星天・金星天・太陽天・火星天・火星天・木星天・土星天・恒星天・原動天・至高天の順で重なっています。

7. LUX AETERNA

Lux aeterna luceat eis, Domine,

名・女単・主 形・女単・主 動・仮・3単 代・3複・与 名・男単・呼
光が とこしえの 照らしますように 彼らを 主よ

cum sanctis tuis in aeternum:

前 名・男複・与 形・男複・与 前 名・中単・対
ともに 聖なるものたちと あなたの ～うちに 永遠の

quia pius es.

接 形・男単・主 動・現・2単
なぜなら 慈しみ深い (あなたは) ～である

Requiem aeternam dona eis, Domine;

主よ、彼らにとこしえの安らぎを給え

et lux perpetua luceat eis:

そして永遠の光が彼らを照らしますように

quia pius es.

なぜならあなたは慈しみ深い方だから

pius 敬虔な

piety 敬虔さ

英語で piety といえばワーズワースの詩「虹」の中の“natural piety” が思い出されます。

(“My heart leaps up” by William Wordsworth)

ラザロ

ルカによる福音書 16 章 19 節からの金持ちと貧乏人のたとえ話に出てくる乞食のことです。

「ある金持ちがいた。彼は紫の衣や細布を着て、毎日贅沢に遊び暮らしていた。ところが、ラザロという貧乏人が全身でき物でおおわれて、この金持ちの玄関の前にすわり、その食卓から落ちるもので飢えをしのぐと望んでいた。その上、犬がきて彼のでき物をなめていた。この貧乏人がついに死に、御使いたちに連れられてアブラハムのふところに送られた。金持ちも死んで葬られた。そして黄泉にいて苦しみながら、目をあげると、アブラハムとそのふところにいるラザロとが、はるかに見えた。そこで声をあげて言った。『父、アブラハムよ、私をあわれんでください。ラザロをおつかわしになって、その指先を水でぬらし、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの火炎の中で苦しみもだえています。』アブラハムが言った。『子よ、思い出すがよい。あなたは生前よいものを受け、ラザロの方は悪いものを受けた。しかし今ここでは彼は慰められ、あなたは苦しみもだえている。』」こんなひどいところへ来ないようにラザロを兄弟たちのところに送ってほしいと懇願する金持ちに対して、アブラハムはこう言います。『「彼らにはモーセと預言者がある。それに聞くがよからう」…『もし彼らがモーセと預言者とに耳を傾けないなら、死人の中からよみがえってくる者があっても、彼らはその勧めを聞き入れはしないであろう。』

(55 年訳)

8. LIBERA ME

Libera me, Domine,

動・命単 代・1単・対 名・男単・呼ぶ

解き放ちたまえ 私を 主よ

de morte aeterna,

前 名・女単・奪 形・女単・奪

から 死 永遠の

in die illa tremenda,

前 名・女単・奪 指・女単・奪 形・女単・奪

～に 日 その 恐るべき

quando coeli movendi sunt

接 名・中複・主 動・現完受・3複

～する時 諸天が 動かされる

et terra;

前 名・女単・主

そして 地も

dum veneris judicare .

接 動・未完・2単 動・不定

～のとき あなたが来る 裁くために

saeculum per ignem

名・中単・対 前 名・男単・対

諸民族を ～によって 火

Tremens factus sum ego,

名・男単・主 形・男単・主 動・現・1単 代・1単・主

恐れ ～で一杯 である 私は

et timeo,

接 動・現・1単

そして おののく

tremendous すさまじい

tremble 震える

まず層をなす諸天が(神によって)

「揺らされ」、そして最後に地が震える、という初めに天ありきのイメージが興味深いです。

ラテン語の語順の柔軟さも生かされています。

judge・judgement 裁く

「イグニッション」発火器のign-も ignis から。

dum	discussio	venerit
接・	名・女単・属	動・未・3単
そのとき	裁き	来たるべき

atque	ventura	ira,
接	分・女単・主	名・女単・主
〜と	来たるべき	神の怒り

quando coeli movendi sunt et terra.

諸天と地が揺り動かされるそのとき

Dies	illa,	dies	irae,
名・女単・主	指	名・女単・属	名・女単・属
その日、		日	神の怒りの日

calamitatis	et	miseriae,
名・女単・属	接	名・女単・属
わざわざい	と	悲嘆の

dies	magna	et	amara	valde,
名・女単・主	形・女単・主	接	形・女単・主	副
日	偉大で	そして	苦い	きわめて

dum veneris iudicare saeculum per ignem.

あなたが諸民族を炎をもって裁かれるとき

Requiem aeternam dona eis, Domine,

とこしえの平安を彼らに給え、主よ

et lux perpetua luceat eis.

そして永遠の光が彼らを照らしますように

Libera me.

我を解き放ちたまえ

venire「来る・行く」に由来する
英語は沢山！

ad 向かって+vent (ure) 来る
= 待降節 (冒険)


in 上に+vent 来る (浮上する)
= 浮上する = 発明する

con 一緒に+vention 来ること
= 会議

怒りのイロイロ

wrath 主に神・天の怒り

fury 

rage 

anger 

irritated イライラしている。

(ira?イライラ? ん?!)

calamity 大災害・苦難

= もともと損失を表す

misery 悲惨・苦痛

= もともと「みじめ」を表す

Magna Carta 大憲章

major 主要な、大きな

three magi(magus 複数形)

キリストの降誕を祝いにやって

きた東方の三博士

ルドルフ・オットーは聖なるものを「戦慄すべき」「強大な」「活力ある」「神秘的な」と描写しています。(「聖なるもの」岩波文庫 久松訳)

9. IN PARADISUM

In paradisum deducant te angeli,
前 名・中単・対 動・現・3複 代・2単・対 名・男複・主
パラダイスへと 連れて行く あなたを 天使たちが

in tuo adventu
前 形・男単・奪 名・男単・奪
～の時 あなたの 到着

suscipiant te martyres,
動・現・3複 代・2単・対 名・男複・主
受けとめる あなたを 殉教者たちが

et perducant te
前 動・現・3複 代・2単・対
そして 送り届ける あなたを

in civitatem sanctam Jerusalem.
前 名・女単・対 形・女単・対
都へと 聖なる イエルサレム

Chorus angelorum te suscipiat,
名・男単・主 名・男複・属 代・2単・対 動・現・3単
合唱が 天使たちの あなたを 受けとめる

et cum Lazaro quondam paupere,
接 前 副 名・男単・奪
そして共に ラザロと 一時は 乞食だった

aeternam habeas requiem
形・女単・対 動・仮・2単 名・女単・対
とこしえの 持ちますように 安きを

ここでは天使がたくさん(複数形ですもん)！

de～から+ducare 引く

=～へつれていく

duc を使う英単語も沢山。

introDUce/inDUce/

conDUctor/proDUce/reDUce

adventu が「到着」で、英語の adventure が「冒険」なのが興味深いです。「冒険」してこそどこかに「到着」できる？

martyr 殉教者

最近はめっきり使用頻度の少なくなった言葉。もっぱら victim (犠牲) ばかり。

civic civil

city citizen

civis 由来の市民・都市関係の単語多し。

pauper 意味も綴りもそのまま
で「貧困者・乞食」

おわりに

人間の言語は、単語は豊かに、語形変化は単純に、と変化するという説があります。単純化した文法で混乱をきたさないように、ことに散文では語順を固定する傾向も強くなると言われています。

一方、ヨーロッパのさまざまな言語のもととなったラテン語には昔からの性質が豊かに残っています。名詞・形容詞・動詞の語形変化が実に豊かで、主語なのか、目的語なのか、いつのことなのかその単語を見ただけでたちどころにわかるようになっているので、順番を変えても混乱は起こりません。このおかげで、イメージの展開する順に合わせて単語を並べ、それにメロディーを合わせる事ができるのです。このレクイエムでは、たとえば *Quando coeli movendi sunt et terra* の箇所などは「天が震わされ、そして地も」という語順と下降するメロディーがぴったり重なっています。これを「天と地が震えるとき」と「英文和訳」的に訳をあてているとどうなるでしょう。一番低い音にあたる言葉が「地 terra」ではなく「とき」になってしまいます。訳としては間違いというほどではなくても、言葉と音楽の豊かさを味わい損ねています。

言葉と音楽の結びつきには意味があります。原語が運んでくるイメージの順を尊重し、言葉と音楽の描く素晴らしい景色をご覧になれるよう願っています。

通訳道場★横浜 CATS

修 冠木友紀子